

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2022年5月17日付

「もっと強くなりたい」

最年少女流棋士鎌田さん

現役最年少の女流棋士誕生。取手市立戸頭中2年の鎌田美礼さん(13)が、日本将棋連盟所属の女流棋士(女流2級)となった。目標の一つをかなえた鎌田さんは「一つ一つの勝負を集中してやっていたい。もっと強くなりたい」と決意し、女流プロとしてのスタートを切った。

現役最年少の女流棋士誕生。

〇中1でプロ意識

「実感はないけど、周りの人や学校の友達からおめでとごと言われて、うれしかった」。鎌田さんは喜びを表す。

幼稚園年長から将棋道場に通い、小学4年で同連盟の「研修会」に所属、研さんを積んできた。研修会では降級を経験し、挫折も乗

挫折乗り越え目標達成

り越えて今年4月にB2クラスに昇級。5月1日付で女流2級が公表された。

「中学1年生の時にプロになりたいと意識した。女流棋士は一つの目標だった。目標がなくなってうれし」と笑顔を見せる。

将棋については「人と対戦するところが面白い。毎回違うことが起こるから」と魅力を語る。得意戦法は「居飛車」。戦法を「振り飛車」から変えた。「今は居飛車党。激しい勝負がいい」と、静かな語り口の中にプロとしての一面をのぞかせた。

〇常に上を目指す

将棋を始めたきっかけは、父親の敦胤さん(50)の影響だ。「お父さんも将棋をやっていたので教えてくれた。ゲーム感覚でやってきた」と、最初は将棋盤と駒を使わず、将棋ゲームで駒の動きを覚えたという。半年後には、近所の南守谷将棋センター(将棋連盟茨城常南支部)子供教室で、同年代と指した。小学3年時に、石田和雄九段(75)が師範を務める干

葉県柏市の柏将棋センター(東葛支部)に通い始めた。南守谷将棋センターで指導してきた辻昌宏さん(63)は「素質があり、柏でさらに腕を磨いた。キッズモデルなどもやっていたが、将棋を選んだ。常に上を目指してきたのだと思う」と振り返る。

〇地元将棋界期待

県内からの女流棋士誕生に、地元将棋界の期待も高まる。常南支部長の美馬和夫さん(66)は「小学生の時に大人顔負けの勝負をしていた。支部会員からプロ女流棋士が生まれたことは、会の子どもたちにいい刺激になる。さらに上を目指してほしい」と期待する。

師匠の石田九段は「もっと多くの人と勝負をして勝っていくこと。それが自信につながる。少なくとも今後5年は強くなることだけを考えてやってほしい」と望む。

敦胤さんは「厳しい世界だが、もっと力を付けて活躍できる女流棋士になってほしい。そのためには、充実した毎日を送ってくれば」と成長を願った。

柏の道場には石田九段の「盤上没我」という言葉が貼ってある。鎌田さんはいかに勝負に集中し、これからも精いっぱいやっていきたい」と決意を語った。

【問1】 現役の女流棋士の中では、「最年少」とありますが、何歳ですか？

【問2】 鎌田さんは、いつごろ将棋を始め、いつごろ、プロになりたいと意識し始めましたか？

【問3】 鎌田さんの得意な戦法は、なんですか？



よ
読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね